

令和6年度第2回成田市学区審議会 会議概要

1 開催日時

令和6年11月6日（水） 午後3時30分～午後4時30分

2 開催場所

成田市花崎町760
成田市役所 第二応接室

3 出席者

（委員）

江邨委員、内田委員、渡邊委員、坂内委員、津守委員、富岡委員、石毛委員及び谷平委員

（事務局）

日暮教育長、小川教育部長、井上学務課長、益田学務課副参事、大場学務課管理主事及び井上学務課管理主事

4 議題

議案第1号 小規模特認校の就学における条件について

議案第2号 部活動による指定学校変更の受入れ中学校について

報告第1号 指定学校変更・区域外就学の状況について

報告第2号 小規模特認校の現状について

5 議事(要旨)

議案第1号 小規模特認校の就学における条件について

（要旨） 小規模特認校制度を使って豊住小に就学を希望する場合の条件について、現在は①成田市内に生活の本拠を有し、市内の学校に就学している児童または就学予定者であること、②学校行事やPTA活動などにもご協力いただけること、③保護者の送迎等により毎日安全に通学できること、④原則として、卒業までの間通学する意志があること、という4点が示されている。今回新たに条件として明記しようと考えているのは「原則として年度当初からの受入れとする」というものである。年度途中の転入を希望する児童の中には、困難回避先として豊住小への転入を検討してしまう可能性があること、年度途中の受入れの場合、人数によっては学級数や教員の定数に関わってくる可能性があるということが挙げられる。そのため、原則として年度途中の受入れについては行わないということ明記したいと考え、委員からの意見をいただく

た。委員からの質問や意見は次の通りである。

富岡委員：豊住小学校を避難場所として活用する方がいるということだが、残念ながら問題が起きてしまった時に受け入れてもらえるような場所というのは、確保されているのか。また、設立するような意向があるのか。

事務局：保健室で対応したり、特別支援学級での体験入級と言う形で対応したり、その子の個別最適な学びに合うような対応をしている。また、通級指導教室を設置している学校もある。

第1号議案については事務局提案の通り答申を受けた。

議案第2号 部活動による指定学校変更の受入れ中学校について

(要旨) 生徒数や教室数を考え、現在成田中学校では部活動による指定学校変更を停止している。成田中学校については引き続き、加えて遠山中学校、吾妻中学校において令和8年度入学について受入れを停止したい旨について、委員からの意見をいただいた。委員からの質問や意見は次の通りである。

津守委員：部活動の地域移行について、どのような方向で進んでいるのかにも関連してくるので、そちらについても教えてほしい。

事務局：部活動の地域移行が進んでいることもあり、見通しがついていない部分も多くある。そのため、長期的にはではなく、まずは令和8年度について停止をしたいと考えている。

事務局：部活動の地域移行については予算編成の面からもまだ方向性について決まっていない状況である。平日の部活動に関しては今まで通り学校で行うので、部活動の地域移行に係るものについては指定学校変更の部分では管理していない。

谷平委員：令和8年度の吾妻中学校の人数は、推計によると7年度より減っている。なぜ令和8年度なのか。

事務局：推計によると人数は減っているが、学級数は増えている。具体的には、千葉県の施策として、1年生については35人学級が推奨されており、令和8年度の1年生は5学級になると見込まれる。合計学級数は19学級となるので、教室数に余裕はなくなる。

富岡委員：部活動の地域移行が始まり、子どもたちが希望する部活動があ

る中学校を選ぶようになると、推計のデータもかなり流動的になるのではないかと。そうすると、部活動の要件における指定学校変更の受入れを停止する中学校についても決められなくなってしまうのではないかと。

事務局：現在の制度においては、部活動の地域移行により好きな学校に移動できるという要件はないため、子どもたちの就学する学校が変わるといった想定はしていない。

第2号議案については事務局の提案通り答申を受けた。

報告第1号 指定学校変更・区域外就学の状況について

(要旨) 学区、指定学校変更に関する課題について報告し、委員から意見をいただいた。委員からの質問や意見は次のとおりである。

渡邊委員：令和7年度の豊住小学校への入学者数は。

事務局：現時点は0名である。

津守委員：中台小学校の人数が減っているのに対し、中台中学校の人数が減らないのはなぜか。

事務局：指定学校変更・区域外就学の運用についての中で「加良部1丁目」に住んでいる場合は西中学校に行けることになっているため、実際に中台中学校に進学する児童は推計よりも少なくなる。

谷平委員：人数が減っていく学校に対して、教育委員会としては検討を進めていく必要があるのではないかと。

事務局：学区の変更については慎重に行っていきたい。開発の関係もあるので、最新情報を得ながら見直しを持って進めていく。

富岡委員：不登校解消のための指定学校変更は行っているのか。

事務局：教育的配慮という要件があるので、子どもたちに寄り添って対応していく。

石毛委員：外国人が増えているが、言葉の問題での指定学校変更の事例はあるのか。

事務局：言葉の問題により人間関係を作りにくい等の理由があり、指定学校変更をしたケースがあるが、その子は転校後、元気に学校に通えている。

報告第2号 小規模特認校の現状について

(要旨) 小規模特認校である豊住小学校の現状について報告し、委員から意見をいただいた。委員からの質問や意見は特になかった。

その他

(委員からの提案等は、なし)

6 傍聴

- (1) 傍聴者 2名
- (2) 傍聴の状況 傍聴要綱に反する行為は認められなかった。